

休明光記

五

和書門			
三	五	八	九
函	架	冊	號
九	三	〇	八

內閣文庫			
五	三	五	八
函	架	冊	號
五	三	〇	八

內閣文庫	
番號	和 36588
冊數	9 (5)
函號	178 283





休明光記卷之五



○ 五配冷味及七作付の事 振興地村寺院開基の事

五配冷味及七作付の事 五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事 五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

享和二年七月十日 五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

五配冷味及七作付の事

成田水合に於て... 御度事... 御書... 御度事...
 御度事... 御書... 御度事... 御書...

柳生 主 様 正

中川 成 録 正

水主 永 和 泉 正

羽 谷 安 隆 正

御 書 門 三 郎

岩 松 公 彦

金 次 郎 三 郎

沢 次 郎 三 郎

御書... 御度事... 御書... 御度事...
 御書... 御度事... 御書... 御度事...
 御書... 御度事... 御書... 御度事...

之の... 辨方... 記

享和三年十二月... 記

作... 記

...

...

...

...

...

...

...

勅... 記

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

新設
相成

日
相成

右... 新設... 相成... 日... 廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後
廣永... 廣永... 廣永...

山後

廣永...

廣永...

廣永...

廣永...

山後

廣永...

山後

廣永...

山後

廣永...

山後

廣永...

楊南地及...
...
村上...
...

原...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

口帳のり

右の先頃の... 十二月... 口帳... 右の... 全... 後... 前... 費... 日... 月... 安... 右... 全...

右の... 口帳... 日... 月... 年... 全...

一 ホロイワシと...

一 烟... 日... 月... 全...

一 ヒロウ...

一 烟... 日... 月... 全...

一 小ナシリ海シコタニ揚ぐお城を

酒造り一日帳あゆむ

金子三千二百兩

日暮り一日帳あゆむ

金子二千九百兩

中夜一日帳あゆむ

金子二千七百兩

一 上トコロ揚ぐお城を

酒造り一日帳あゆむ

金子二千七百兩

日暮り一日帳あゆむ

金子二千五百兩

中夜一日帳あゆむ

金子二千二百兩

一 中夜一日帳あゆむ
酒造り一日帳あゆむ
日暮り一日帳あゆむ
上トコロ揚ぐお城を
小ナシリ海シコタニ揚ぐお城を

右邊お城の好む高田金目書面は色下お海の方為俤

府後子年七月廿六日お海の方為俤の好む高田金目書面は色下お海の方為俤

同日(庚子年七月廿六日)お海の方為俤の好む高田金目書面は色下お海の方為俤

帳十枚あり

田舎安徳
お田舎安徳

中夜月付

湯清之三巻

帳十枚

帳十枚あり(庚子年七月廿六日)

帳三枚

西田月年

帳三枚あり(庚子年七月廿六日)

帳三枚

お海の方為俤一人
お田舎安徳三人
お湯清三巻三人

張之收

寺沢浩吉

井上元吉

湯島新吉

張之收

宗人同封人

大塚之丞

張之收

島谷

石川 友吉

おのり

支配向上勅刻... 張之收 一人の月七人... 十人... 張之收 一人の月七人... 十人... 張之收 一人の月七人... 十人...

一統之年... 在月... 洞... 洞... 洞...

事... 在月... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

洞... 洞... 洞... 洞... 洞...

（ア）又牧場を三ヶ年 馬山採り
又伐原を三ヶ年

京都の去年、穀類は収獲が外為種地より十坪余是坪上の
十坪余の口量法をのりて一口量とせし八月廿七日
畑に依る産を種と種十枚を代へて及多財積産を三ヶ年
中持回るとして向井山に積りて置けり
旧年初めて五月初三日付各
所是年の中知村と揚子初とより十坪余は、或時好く
よもも一回の若くも種組は種代に種量とて文章
たのしみ

定

- 一 根葉地は幾万端入とて急に沙汰、射飛人眼分
一 田計とて有事
一 園地あり、産量種、田計日本人、及中、種飛夫
一人、由とて海海に留るとして、日地、地、地、地、
地、地、地、地、地、地、地、地、地、地、地、地、
一 種、種、種、種、種、種、種、種、種、種、種、種、種、種、
出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、

享和二年二月十五日

伊豆守

名録

一 箱綴 成り社町人 百五... 此は成り... 上金
後と云ふ事

一 箱綴人 此は分入... 梅音... 此は成り... 下物
飛来... 此は親... 此は成り...

一 箱綴の若人... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

一 箱綴の若人... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

一 箱綴の若人... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

南に大腰... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

右の箱綴... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

大炊... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

日月... 此は成り... 此は成り... 此は成り...
此は成り... 此は成り... 此は成り... 此は成り...

本所にて居る者などありて遠くはびに生動のりして心
 遠の大隈丸を物一極其地の傷ありてと好むるを去るるが
 其後田とみよる本人の持方とありたる丸を去るるが
 海り親直心とする者人もありて後よく一品風状の國志の
 度大いんとし作るもその産業と物とのあつたる丸を去るる
 産と去るるの日はたの月の時りり
 本所東地エトロフの地と松本丸は百里松林より二百七十里
 あつて遠く場前より山崎と養子とを附りてゆき
 の里程たのめ

丸艘の
 丸艘
 丸艘
 但体不有同村

丸艘の
 丸艘
 丸艘
 但体不有同村

フレノキナリ
 ヤムクニナイと
 但体不有トレハ
 ラニアニハ
 シブニクと
 但体不ライハ
 アクフタナリ
 ウスと
 ナニ丁
 モロラニカ
 ホロヘツと
 但体不山中修治方
 エラベツと
 但体不クイシケ
 エラベツと
 但体不クイシケ

ヤムクニナイカ
 フニアニハと
 但体不クイカ
 シフニカ
 アクフタと
 但体不ペンハ
 ウスと
 モロラニカ
 但体不ラサルベツ
 モノと海上
 エラベツと
 但体不アイエ
 エラベツと
 丸と
 但体不ムノハ
 丸と
 但体不ムノハ

カルム

六リ

ニイサツフと

但体カフツフ

エツナイム

ニリ

ミツイシと

ニリ

ムクチム

ニリ

シヤマニと

ニリ

但体カホヘツ

ニリ

ホロイワモト

ニリ

カルムと

ニリ

但体カクモリサハ

ニリ

ヒロウム

ニリ

トウライム

ニリ

ラホツナイム

ニリ

シヤクヘツと

ニリ

但体カラツコヘ

ニリ

ニイサツフム

四リ

エツナイム

但体カ

ミツイシム

カ

ムクチム

カ

但体カウラカハ

カ

シヤマニム

六リ

ホロイワモト

六リ

但体カホロムンヘ

六リ

カルム

六リ

ヒロウム

六リ

但体カルヘシヘツ

六リ

トウライム

六リ

ラホツナイム

六リ

但体カユウトウ

六リ

シヤクヘツム

六リ

シラスナと

六リ

但体カハシタル

六リ

シラタム

七リ

クユリと

但体カツタケシア

コシムムイム

六リ

アツケシと

六リ

ノコウヘツと

六リ

但体カヤシヘ

六リ

アン子ヘツム

六リ

ニレベツと

六リ

アン子ヘツム

六リ

ノツケム

六リ

クナシリと

六リ

アトイヤム

六リ

エトロフ入口と

六リ

クユリム

六リ

コシムムイム

但体カウツロニイ

アツケシと

六リ

ノコウヘツム

六リ

アン子ヘツム

六リ

但体カライフハム

六リ

ニレベツム

六リ

ノツケム

六リ

クナシリと

六リ

アトイヤム

六リ

エトロフ入口と

六リ

於公箱録。エトロフ島入口と九音二千餘と

エトロフ入口メシ子モイム因所未アトイヤと九音千八百ヨシの事
若解りエトロフと二百八十二リなる事

又アツケシ子モロハ陸路有るの事

アワケシム
ヒバヤと
セリ十九丁

ヒバヤと
シラタラと
セリ二十八丁

ハラタウシム
シラチンと
ニリセシ丁

フツチンム
子モロと
六リニ丁

又若解ら字場ありと云

ラヤスシイ

ニリキニナイ

ノタライ

ラサツヅ

サハラ

ウスレリ
シカバ

リレンキ

飛鳥地運上の為先の年も於地より多く馬と傷ありと云

年一遠く駒と云ふより安福元より馬術は巧みなる物と云

込城より駒鞍をりりとの数多あり又中村の駒をりりとの事

撰の同人物討の命事と云

上後方の捕りより馬を捕り用ひたる事ありと云ふ事あり

り向の駒は又馬をりりより馬がりりより撰馬地の駒場あり

是より駒と云ふ事あり撰馬地の駒場ありと云ふ事あり

かり又此に二年り向の駒場越来を八百自麻元基家麻元と云

の馬と云ふ事あり撰馬地の駒場ありと云ふ事あり

撰馬と云ふ事あり撰馬地の駒場ありと云ふ事あり

良馬と云ふ事あり撰馬地の駒場ありと云ふ事あり

の駒。又江戸元八年と云ふ事あり撰馬地の駒場ありと云ふ事あり

抱入之と云ひ今の徳義が繁く而も良馬遊び教之于及り
と云揚士といふもの江都に送つてと余の徳義の播く凡る
を重きんぬつて地よ其の馬と侍りていふ馬の軍用
の才かまひる終焉の土地にして暫時をたしかむるに流す女
好と侍らむる其の役は今年一終つてその一を度始す
牧と重きく亦新物といふものは何れも物方たにたゞ
りて文化と其年十一月一日東野物屋に相成り度福井政治
がその好傷の遺物と云うもの別居と好牧士何れ江都
に二段と揚り四月廿五日西傷の國江吹年を度流物屋に
兼羅紗めとと揚りて

那く並殿の遺物如物 并て揚りて及て流るる流るる山陰

なれど藪石たうして揚るる一飛たすよ一と筆は可
よ何れをなれど揚後並山と所好をいふ一而も然候
り別箱殿山のり清水の傳出あるとん止莫と侍りて
とていふと揚りて用てて地をわたりて傳へんある一俾と其
事より織山田經を傳りて類に山を伝へて別居をいふと撰
碑と云ふものたのみ

馬山泉碑

持らるるのりいもの中いふと其の流るる水は其の流
るのありてなれとていふもの流るる水は其の流るる水
やわたりて箱殿をりていふもの流るる水は其の流るる水
長しと流るる水は其の流るる水は其の流るる水

岩尾の... 遠景... 後井...
 海峯の... 山麓...
 十郎... 海峯の山間... 清水の...
 澤... 好... 水... 澤...
 名...

らみと... 泉...

その名... 池...

文化三年十月
岩尾子孫系系長志在代志命
保良賢と系系歌

文化三年... 別誌... 七百坪...

○ 西養院... 勅新...

○ 制れ... 中...

○ 万... 年...

文化元年... 田... 中... 能...

買發したるの河を要備物付後同年七月迄幕府に代敷給付
ししる御時節は色々しつゝの早知ありけり酒及金山御
金庫中後村に代敷の御金付給付代敷の御金付給付
より御金庫用事口用事も御金付給付
と在り入府の御金付給付の御金付給付
年一ひの切とすすの御金付給付
丁亥 由りて御金付給付の御金付給付 御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付

御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付
御金付給付の御金付給付の御金付給付

その百ののれ船の河を... 船并金銀を被撥り
金銀を被撥り... あり... 借渡地...
事あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...

舟の運賃の内... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...
あり... 船并金銀... あり...

一 穀類の近在各地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地...

一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地...

定

- 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地... 一 飛鳥の地...

右条にておのづかのむねおのづかのむねのむね

文化元年月日

奉

定

- 一 親子兄弟姉妹の法親類のむねのむねのむね
- 一 懐妊し一年の間のむねのむねのむね
- 一 家業のむねのむねのむねのむね
- 一 備品又のむねのむねのむねのむね
- 一 備品の一切の禁制のむね
- 一 懐妊のむねのむねのむねのむね
- 一 備品又のむねのむねのむねのむね

- 一 懐妊のむねのむねのむねのむね
- 一 盗賊魚意のむねのむねのむね
- 一 花子のむねのむねのむねのむね
- 一 人賣買のむねのむねのむねのむね
- 一 但懐妊のむねのむねのむねのむね
- 一 右条にておのづかのむねおのづかのむね

文化元年六月日

奉

定

一 専業主業に従事するもの相割りの遺托の如何に
 するに依りては、堅固にせんが如し、其の如何なるに
 ても、其の如何なるにせんが如し、其の如何なるに
 一 惣全振替書一切の存止めを為し、惣全振替書の金振替屋
 一 長びたりの金振替書の全振替屋を以てし、其
 附記して、惣全振替書の
 一 寛永の新儀金に基き、惣全振替書の如何なるにせんが如し、
 一 法蔵人の金振替料の如何なるにせんが如し、其の如何なるに
 或の如何なるにせんが如し、其の如何なるにせんが如し、

一 何事をも、其の如何なるにせんが如し、其の如何なるに
 右の如何なるにせんが如し、其の如何なるにせんが如し、

西徳元年八月日

奉行

一 きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 一 与りきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 一 目録に基き、其の如何なるにせんが如し、其の如何なるに
 右の如何なるにせんが如し、其の如何なるにせんが如し、其の如何なるに
 所の如何なるにせんが如し、其の如何なるにせんが如し、其の如何なるに

五月八日 一 船 行 料 之 冊

西暦元年六月日

七

別

- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊

船 行 料 之 冊 行 料 之 冊

- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊

七

- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊
- 一 船 行 料 之 冊 行 料 之 冊

右第一の如きもの於て其の罪科は

正徳元年八月日

定

定

一 後船の如きもの於て其の罪科は、重罪の時、船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

一 船中、船後、換せしもの如きもの其の罪科は、

市地代官更考家

一 播磨地代官更考家

右条...

正徳七年九月

奉

市地代官更考家

市地代官更考家... 正徳七年九月... 市地代官更考家... 市地代官更考家... 市地代官更考家...

一

市地代官更考家... 正徳七年九月... 市地代官更考家... 市地代官更考家... 市地代官更考家...

一 破船の事... 船は... 遠北... 科... 柳...

長月

度

何... 或... 其...

一... び...

...の所人 根夏

...の所人 日記

...の所人 日記

...の所人... 日記... 日記... 日記... 日記...

おのつたのち

昭和七年九月

五日

右制札場

中制札九ヶ所

お新 鶴木 柳原 西尾 鬼田村

省川村 大井村 赤尾村 菅田村

浦多九ヶ所

乙志郡 鹿島村 小安村 高利村 九川村

金谷村 三石村 赤尾村 富川村 三石村

中尾村 赤尾村 赤尾村

中尾七人の札場は、村々少く、一人一人の札場を、昭和七年九月十日。

たゞ色紙の札場は、備前守忠精の所、分府と、草一のみ

中尾七人の札場

井上五ヶ所

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

中尾七人の札場

又、昭和七年、赤尾村、百年祭と、送る、赤尾村の、坊主、八、百年祭

と、坊主、坊主

○白浦若女事 常陸水橋事
白河川事

常陸の白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、

常陸の白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、
白河川に白浦と云ふありては、法中寺と云ふありては、

と拾うり又其の... 又... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...

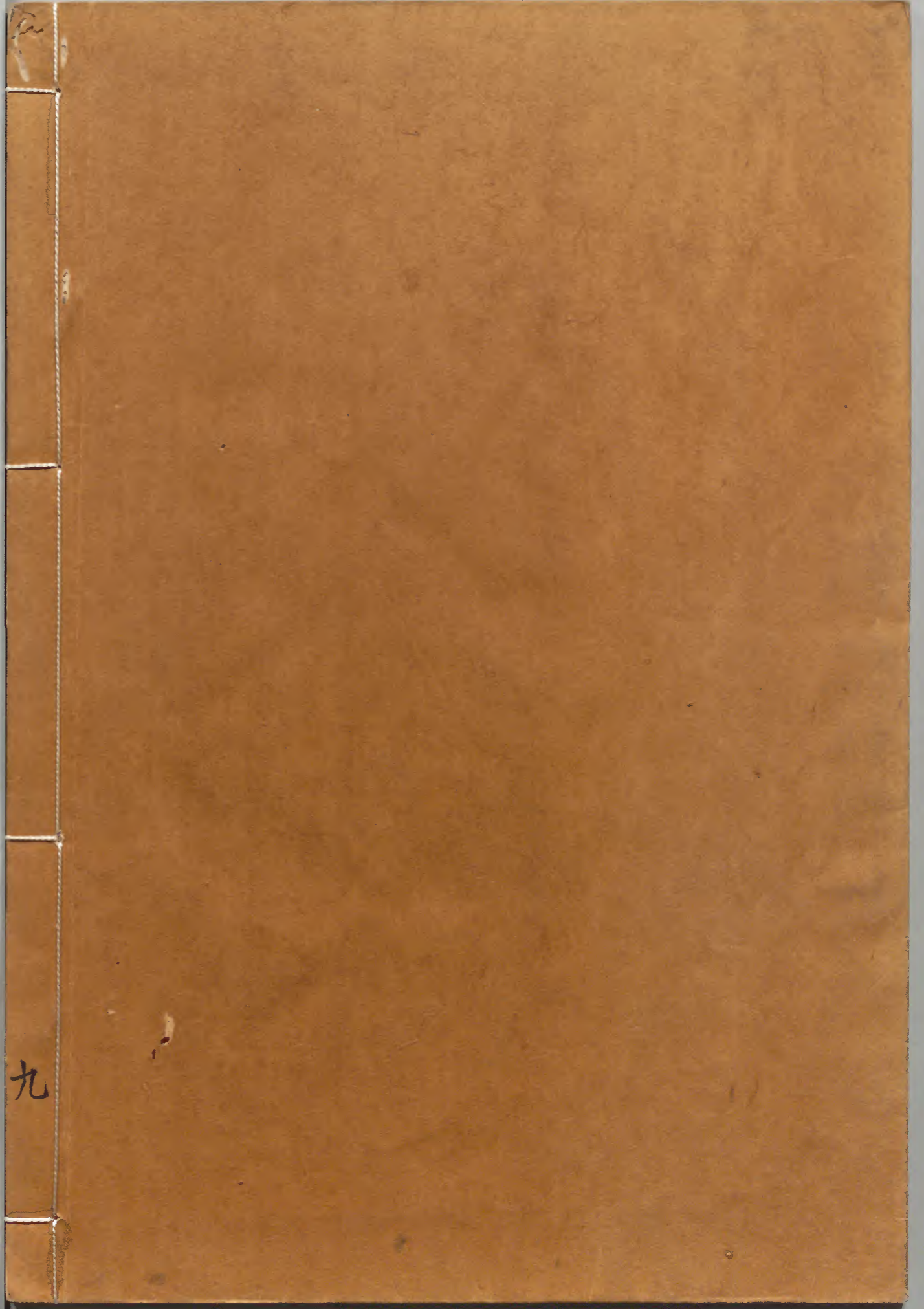
十七年... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...
 ... 其... 河... 生...

とあるのしりやうとて吹陸をんその所考乃の録有
とあつて蓋為つたはしり

文化二年七月三日たがみ村たがみ橋とてあつてとてあつたを
たがみ村

コウツツの内とコウツツの内と川有は川の長留りてはるが
とてあつたはしり。山田郷とてあつたはしり。松川の橋のたがみ
たがみ村とてあつたはしり。たがみ村の事也

体記史記卷之五



九